

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第5部門第2区分

【発行日】平成21年4月16日(2009.4.16)

【公開番号】特開2006-242383(P2006-242383A)

【公開日】平成18年9月14日(2006.9.14)

【年通号数】公開・登録公報2006-036

【出願番号】特願2006-54440(P2006-54440)

【国際特許分類】

F 16 L 37/12 (2006.01)

【F I】

F 16 L 37/12

【手続補正書】

【提出日】平成21年3月2日(2009.3.2)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

開口から延在する内部キャビティを画定する本体と、

前記開口を通って前記内部キャビティ内へ延出するエンドフォームを有する管であって、前記エンドフォームは、先端と、該先端から離間している半径方向アップセットと、係合表面とを有する、管と、

前記アップセット及び前記本体と当接関係にあり、該管を前記本体内に固定するためのリテナと、

前記本体及び前記リテナの一方に関係付けられた第一ロック表面と、
を備えるクイックコネクタ継手アセンブリであって、

前記エンドフォームの前記係合表面は、前記本体及び前記リテナの一方に關係付けられたロック表面と相互作用し、それにより、前記本体に対する前記管の回転移動に抵抗するようにした、クイックコネクタ継手アセンブリ。

【請求項2】

前記係合表面は、ほぼ平坦な軸方向平面であり、前記第一ロック表面は、ほぼ平坦な軸方向平面であり、前記係合表面及び前記第一ロック表面は、対面関係に配置される、請求項1に記載のクイックコネクタ継手アセンブリ。

【請求項3】

前記第一ロック表面は、前記本体上に画定される、請求項2に記載のクイックコネクタ継手アセンブリ。

【請求項4】

前記本体の前記内部キャビティは、シール面及び管端部収容面を含み、該管端部収容面は、前記第一ロック表面を含み、前記第一ロック表面は前記管端部収容面と前記シール面との移行部で終端している、請求項3に記載のクイックコネクタ継手アセンブリ。

【請求項5】

前記本体は、第二の開口から延在する第二の内部キャビティを画定し、第二の管の第二のエンドフォームが、前記第二の開口を通って該第二の内部キャビティ内へ延出しており、前記第二のエンドフォームは、第二の係合表面を有し、前記第二のエンドフォームの前記第二の係合表面は、前記本体に関連する第二ロック表面と相互作用し、それにより、前記本体に対する前記第二の管の回転移動に抵抗するようにし、前記第二ロック表面は、前

記第一ロック表面の配置向きと異なる配置向きとされている、請求項2に記載のクイックコネクタ総手アセンブリ。

【請求項6】

前記本体に取り付けられたインサートをさらに備え、前記インサートは、前記第一ロック表面を画定する、請求項2に記載のクイックコネクタ総手アセンブリ。

【請求項7】

前記インサートは、半径方向外方に延出する複数の突起を有し、該突起は、前記本体に画定された複数のノッチと相互作用し、それにより、前記本体に対する前記インサートの回転移動に抵抗するようにした、請求項6に記載のクイックコネクタ総手アセンブリ。

【請求項8】

前記本体は、第二の開口から延在する第二の内部キャビティを画定し、第二の管の第二のエンドフォームが、前記第二の開口を通って該第二の内部キャビティ内へ延出しており、前記第二のエンドフォームは、第二の係合表面を有し、前記第二のエンドフォームの前記第二の係合表面は、前記本体に関連する第二ロック表面と相互作用し、それにより、前記本体に対する前記第二の管の回転移動に抵抗するようにし、前記第二ロック表面は、前記第一ロック表面の配置向きと異なる配置向きとされていて、当該クイックコネクタ総手アセンブリは、前記本体に取り付けられた第2インサートをさらに備え、前記第1インサートは前記第一ロック表面を画定し、前記第2インサートは前記第2ロック表面を画定する、請求項7に記載のクイックコネクタ総手アセンブリ。

【請求項9】

前記第1インサートは、半径方向外方に延出する複数の突起を有し、前記第2インサートは、半径方向外方に延出する複数の突起を有し、前記第1インサートの前記突起は、前記本体に画定された第1組のノッチと相互作用し、それにより、前記本体に対する前記第1インサートの回転移動に抵抗するようにし、前記第2インサートの前記突起は、前記本体に画定された第2組のノッチと相互作用し、それにより、前記本体に対する前記第2インサートの回転移動に抵抗するようにした、請求項8に記載のクイックコネクタ総手アセンブリ。

【請求項10】

前記アップセットは、軸方向において前記先端と前記係合表面との間に位置する、請求項2に記載のクイックコネクタ総手アセンブリ。

【請求項11】

前記第一ロック表面は、前記リテーナ上に画定される、請求項1に記載のクイックコネクタ総手アセンブリ。

【請求項12】

前記エンドフォームは、第二の係合表面をさらに画定し、前記リテーナは、第二ロック表面を画定し、前記第二の係合表面は、前記第二ロック表面と相互作用し、それにより、前記本体に対する前記管の回転移動に抵抗するようにした、請求項11に記載のクイックコネクタ総手アセンブリ。

【請求項13】

前記係合表面及び前記第二の係合表面は、前記管の両側に画定されている、請求項12に記載のクイックコネクタ総手アセンブリ。